

＜豊穰の秋＞今年春先から雑木林には豊作の気配がありました。一つには前年に花を咲かせ冬を越して実を稔らせる木々がドングリ(団栗)の赤ちゃんを沢山付けていたからです。不作の昨秋と違い、雑木林に入ると吹き抜ける風に揺すられて落ちるドングリの地面を打つ音が聴こえます。ところでドングリの仲間には春に花を咲かせその秋に稔るものや2年がかりで稔るものなど20種



＜アラカシ＞



＜シラカシ＞

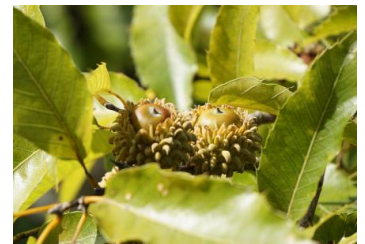
ほどあるようです。写真はその内のよく見かける5種です。実を包



＜マテバシイ＞



＜コナラ＞



＜クヌギ＞

んで支えている部分は穀斗(かくと)と言われますが、上にすればボウシで下にすればハカマです。「団栗の寝ん寝んころりころりかな(一茶)」、いろんなングリ、何となく微笑みながら手にしたくなりませんか。そして皆さんは独楽(こま)やヤジロベエなどのおもちゃの材料にされたことでしょうか。



＜ヤマノイモのむかごと若い実＞



＜チャの実＞↑ <ギンナン＞↓

＜落ちる音＞雑木林の縁辺や野辺のあちこちでヤマノイモがむかご(零余子)を付けています。塩茹(ゆ)で食すか”むかご飯”にするべく、手を伸ばし採ろうとするとぽろぽろと落ちてしまいます。これからはそよ風が吹いても落ちていきます。まさに「音にして夜風にこぼす零余子かな(蛇笏)」です。チャ(茶)も花が咲き出す今の時期に殻が割れて実を落としはじめます。せいぜい人の背ほどの高さからですが堅くて重い実は落ちると音を立てそうです。イチョウも独特の臭(酪酸、ブタン酸などによる)と共にギンナンを校門からの並木道にまき散ら



＜エナガ＞

しています。「銀杏(ぎんなん)が落ちたる後の風の音(汀女)」  
 ＜みんなで＞ヤマボウシにエナガが群れて「チュリリ、ジュリリ」と鳴きながら枝の間を忙しなく動き回っています。綿をまるめて長い柄を付けたような姿が愛くるしい小鳥です。晩秋の夕方に小枝に一列に体を寄せ合っているのを見かけたことがあります。ツガイ以外の雄が子育てに加わることがあるとのこと、「みんなで仲良く」ですね。(文と写真：松本正勝)